

令和 4 年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立伝法小学校

令和 5 年 2 月

大阪市立伝法小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 令和 3 年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は 86%。
- 令和 3 年度小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は 27.4%。

中期目標（令和 7 年度末まで）

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90% 以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 30% 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 朝学習・家庭学習・心の天気等において、学習者用端末を週 1 回活用する。

2 年度目標（中期目標の達成に向けて）

学校の年度目標・全市共通目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 87% 以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 28% 以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 78% 以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 59% 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 朝学習・家庭学習・心の天気等において、学習者用端末を週あたり 1 回活用する。
- ゆとりの日を週に 1 回設定・実施する。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】については、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、最も肯定的な回答をした児童は、目標に達しなかつたが、肯定的な回答は 93.1%であった。子どもたちに、いじめは何があってもゆるされるものではないという認識をさらに高める指導を徹底し、次年度も今年度同様に「いじめ（いのち）について考える日」での取組や日常の道徳指導、生活指導を充実させていくことが不可欠である。

不登校児童の在籍率については、前年度と同じく 1.2%だが、個々の児童の登校日数は増え、状況は改善してきている。今後もスクールカウンセラーなどと連携し、不登校児童の登校状況の改善について、包括的な支援を継続していく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】については、全国学力・学習状況調査の無答率や大阪市小学校学力経年調査の児童質問紙からも、本校児童の学習意欲は高まっていることがわかった。しかし、全学年で向上したわけではない。今後も、児童の学習意欲を学習結果に結びつけるため、授業改善を進めて基礎的・基本的な学力を身につけさせることが必要である。全学年で取り組める読書タイムや家庭学習の啓発などを進め、児童にとって「できる・わかる・楽しい」が実感できる伝法小学校の学びをさらに進めていく。

体力に関しては、「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な回答は 76.7%と目標の 59%を大きく上回った。デンリンピックや校内の体験遊具を活用した取組を今後も継続するとともに、学びに向かう姿勢につながる体力づくりを合理的に継続していく。

最後に、**【学びを支える教育環境の充実】**については、児童の学習端末の活用率は順調に増加し、教師、児童共にその活用技術も向上した。さらに「心の天気」の活用を進め、多角的に児童のアセスメントを進めていきたい。

大阪市立伝法小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況		
【安全・安心な教育の推進】 <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 87% 以上にする。 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 	B		
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況		
取組内容①【本市基本計画番号1－1 いじめへの対応】 「いじめについて考える日」の取組や、アンケート等の実態把握、自己有用感を高め自他の尊厳を認め合う学習活動を通して、いじめを許さない集団づくりに努める。	B		
指標 「いじめについて考える日」の取組を年1回、いじめアンケートを年3回、他学年とのメッセージ交換をする「ぽかぽかの木」を各学期1回実施する。			
取組内容②【本市基本計画番号1－2 不登校への対応】 「心の天気」、「アセス」、スクリーニング会議、家庭訪問、スクールカウンセラー等を活用し、子どもの困り感に応じた丁寧な対応と、情報共有、不登校の早期対応・解消に努める。	B		
指標 不登校の未然防止や早期対応・解消に向けた教員間の情報共有を月1回実施する。			
取組内容③【本市基本計画番号1－3 問題行動への対応】 毎朝、校門前でのあいさつ指導や、児童会の「あいさつ運動」を実施し、自ら進んで気持ちのよいあいさつができるようにするとともに、規範意識や自律の意識を高める。	B		
指標 「あいさつ強化週間」を年3回実施する。			
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析			
年度目標に関して、一つ目のいじめに関する目標については、最も肯定的に回答する割合は、達成できなかったものの、肯定的に回答する割合については、90%を超えており、次年度は達成可能であると考えられる。 二つ目、三つ目の不登校に関する目標に関しては、不登校児童の在籍比率は変化がないものの、不登校児童の登校日数は増加しており、状況はやや改善された。 取組内容①については、「いじめについて考える日」には、各学級で授業を通していじめについて考える機会を設けた。いじめアンケートも計画通り実施しており、実施した後には各担任が丁寧に聞き取りを行い、対応した。また、複数の学年で、帰りの会等で「ほめ言葉のシャワー」や「ほめほめタイム」など、自己有用感を高める取り組みを行った。さらにコロナ禍で異学年との交流が少ない中でも、デンリンピックや運動会でそれぞれの良さを見つけ、「ぽかぽかの木」に表す活動を行った。「ぽかぽかの木」はピロティに掲示することで、子ども同士がたくさんあたたかい言葉に触れることができた。			

取組内容②については、日々の観察や「心の天気」「アセス」などで子どもの困り感をとらえ、子どもとの対話や家庭訪問等を行う等対応した。そして、月1回児童理解の会議を開き、必要に応じて関係職員で子どもの様子を伝え合った。また、「心の天気」を毎朝つけるように指導し、気になる児童の「心の天気」をさかのぼって確認し、個に応じた指導をするなど活用した。

取組内容③については、児童会によるあいさつ運動を計画的に行うことで、全校児童の「あいさつ」への意識が高まっている。十分にあいさつができるいない子どももいるのでその手立てを検討していく。

次年度への改善点

取組内容①については、児童全員が、自分や周りの友だちを大切にする心を育む活動実践を一層進め、評価・改善を加えてさらに浸透させていく。

取組内容②については、心の天気をさらに活用し、日々の子どもたちの実態把握をしていく必要がある。

取組内容③については、あいさつ強化週間ではあいさつに対する意識が高まるが、それ以外の時にも、意識を高める工夫が必要である。「あいさつ運動」の時にポスターを掲示したり、児童会がたすきをかけてあいさつしたりするなど、より目に見える形を継続する。また、がんばりカードや賞状など、日々のがんばりを評価できるようにする。

大阪市立伝法小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を28%以上にする。 ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。 ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。 ・ 小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を59%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【本市基本計画番号4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】</p> <p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながる授業研究会を全学年で年間1回以上行い、学力向上につながる指導力の向上に取り組む。</p> <p>指標 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をめざし、全学年において研究授業を年間1回以上、各教員において公開授業を年1回以上行う。</p>	B
<p>取組内容② 【本市基本計画番号4-1 言語活動・理数教育（思考・判断・表現）の充実】</p> <p>読み・書き・計算などの基礎的・基本的な知識・技能を繰り返し着実に身に付けさせるとともに、家庭学習も含めた学習習慣の定着を図り、習熟度レベルの下位層の底上げを目指す。</p> <p>指標 全校基礎学習を週1回、読書タイムを週1回、中学年の放課後学習を週2回実施する。</p>	B
<p>取組内容③ 【本市基本計画番号5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】</p> <p>子どもの困り感に目を向け、体つくりを軸にした運動を体育科や日々の生活の中に取り入れ、学習に向かう力を育成する。</p> <p>指標 体力・運動能力等の調査を年2回実施する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>年度目標に関して、一つ目の話し合い活動に関する目標は、達成できた。二つ目の学力経年調査に関しては、達成できた学年もあれば、わずかながら達成できなかつた学年もあるので、次年度は全学年達成できるようにしたい。三つ目、四つ目の外国語、運動・スポーツに関する割合については、達成できた。</p> <p>取組内容①については、計画的に研究授業を行うと共に、どの授業も討議会をもつことで、授業についての振り返りを共有し、日々の指導に生かすことができた。小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広</p>

げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は、27.8%とやや目標を下回ったが、概ね達成できた。小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比について、同一母集団における経年的な比較では、達成できた学年とできなかった学年があった。

取組内容②については、音読や家庭学習など、指標通り実施できているが、知識理解が定着していない児童もいる。また、放課後学習については参加者が少ない現状がある。小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対しての肯定的に回答する児童の割合は77.9%で、概ね達成することができた。

取組内容③については、小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対しての最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を76.7%で目標を大きく上回った。

次年度への改善点

取組内容①については、研究科目とテーマを絞り、さらに充実させる。授業研究会（大）を低・中・高で1本ずつに増やし、授業研究会（小）の指導案検討を充実させる。

取組内容②については、ただ単に行うだけでなく、具体的な指標や目標をもち、6年間を見据えた取り組みを行う必要がある。（音読のスピードを上げるなど）また、家庭学習の定着が図れるよう家庭への協力を呼び掛けていく。

取組内容③については、定点調査や伝法体操を継続して行うかの確認や内容の精選を行う。効果がわかってきた面もあるので、新体力テストや定点調査は今後も前後期とも実施するか検討する必要がある。

(様式2)

大阪市立伝法小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況		
【学びを支える教育環境の充実】 ・朝学習・家庭学習・心の天気等において、学習者用端末を週あたり1回活用する。 ・ゆとりの日を週に1回設定・実施する。	B		
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況		
取組内容① 【本市基本計画番号6-1 ICTを活用した教育の推進】 朝学習・家庭学習・心の天気等において、学習者用端末を活用し、個別最適な学びと、協働的な学びの質の向上をめざす。	B		
指標 朝学習・家庭学習・心の天気等において、学習者用端末を週1回以上実施する。			
取組内容② 【本市基本計画番号7-1 働き方改革の推進】 長時間勤務の解消を通じ、教職員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができ、子どもたち一人一人に向き合う時間を確保する環境の実現をめざす。	B		
指標 ゆとりの日を週に1回設定・実施する。			
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析			
年度目標に関しては、二つとも達成できた。 取組内容①については、各学年の児童の実態に応じて、朝学習・家庭学習・心の天気・夏休みの課題等において、学習者用端末を活用している。個別に活用することはできているが、協働的な学びに活用していく機会が学年によって差がある。 取組内容②については、ゆとりの日を週に1回設定・実施している。教職員が効率的に仕事をし、勤務時間の短縮につながっている。			
次年度への改善点			
取組内容①については、個別最適な学びにつながる学習者用端末の活用を進める。そのために、学年ごとの学習指導計画に学習者用端末の活用の仕方を位置づけるようにする。そして、家庭学習において学習者用端末を使用する場合の使い方やルール、内容を保護者にも知らせていく。 また、学習者用端末を活用した家庭学習の内容をドリル学習以外にも拡げていく必要がある。 取組内容②については、今後も継続して取り組む。			

令和 4 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立伝法小学校 学校協議会

本年度の学校の自己評価はおおむね妥当である。

【安全・安心な教育の推進】については、子どもたちに、いじめは何があってもゆるされるものではないという認識を徹底してほしい。いじめとはどういうものなのか考え方を家庭へも示し協力を求めていく必要がある。

不登校児童については、今後もスクールカウンセラーなどと連携し、不登校児童の登校状況の改善に取り組んでほしい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】については、今後も、児童の学習意欲を学習結果に結びつけるため授業改善を進め、基礎的・基本的な学力を身につけさせてほしい。体力に関しても、学びに向かう姿勢につながる体力づくりを合理的に継続してほしい。

最後に、【学びを支える教育環境の充実】については、多角的に児童のアセスメントを進めてほしい。

2 年度目標（全市共通・学校）ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 87% 以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

達成状況の評価に関しては妥当である。小学校学力経年調査を丁寧に分析するなど課題を明確にできている。いじめについては、児童全員が、自分や周りの友だちを大切にする心を継続して育んでほしい。不登校対策についても、いろいろな手立てを活用し、子どもの困り感に応じて、不登校の早期対応・解消に努めてほしい。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 28% 以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 78% 以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 59% 以上にする。

達成状況の評価に関しては妥当である。小学校学力経年調査を丁寧に分析するなど課題を明確にできている。校内で研究科目とテーマを絞り、授業をさらに充実させてほしい。また、家庭学習の定着が図れるよう家庭への協力を呼び掛けていくことで、子どもの学力をさらに向上させてほしい。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

- ・朝学習・家庭学習・心の天気等において、学習者用端末を週あたり1回活用する。
- ・ゆとりの日を週に1回設定・実施する。

学校の業務についても精査し、働き方改革を進め、教職員が健康で元気に子どもたちに接することができるようにしてほしい。

個別最適な学びにつながる学習者用端末の活用を進め、使い方やルール、内容を保護者にも丁寧に知らせてほしい。

3 今後の学校の運営についての意見

児童・保護者アンケートからも、学校が日々の指導を丁寧に進めていることがよくわかる。学校と家庭が協力することで子どもたちがよりよく育っていくので、今後も連携を図りながら教育活動を進めてほしい。そして、実際に子どもの成長がみられるまでには、かなりの時間を要すので、短期的に判断するのではなく、粘り強く取り組んでいくことが必要である。

家庭学習に関する項目は、若干肯定的な意見が少ないので、また教職員で効果的な指導法を考え実践してほしい。